

平成 24 年 7 月 19 日

お客様各位

株式会社 山喜農園  
新潟県魚沼市原 1280-1  
TEL. 025-794-2455  
FAX. 025-794-4168  
E-mail: info@yamaki-noen.co.jp  
HP Address. http://www.yamaki-noen.co.jp

## 球根情勢報告 (修正)

### 2011(確定値)/2012(速報値)オランダ作付面積表発行について(B.K.D Web 版)

ただし昨年より 2 週間近く発行されており、~~複数の農家の面積が載っていないことが告知されているようです~~  
**あくまでも速報値だと告知されている様です**

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

栽培面積表が発行となりましたので、ご案内いたします。

今回の作付面積表は、B. K. D 調査やホームページに載せられた速報値、各輸出業社から送られてきた情報を基に作成されています。前記した様に、完全版ではありません。くれぐれもご注意ください。~~(100ha+α 規模で申告漏れの可能性ありとの事。)~~ **別に確認を取ったところそれ程の誤差は起きえない、との意見が多い。(前年に発行された 11 年産の速報値と本年発行された確定値に大きな誤差が少ない事から。加えて B. K. D リストに登録されなければ、輸出検査対象とならないから。)**

12 年産の面積計算方法は、前回までと異なり、2 年連続栽培の鱗片養成面積が開花球面積に組み込まれている様です。(これは日本だけではなく、世界市場に向けての輸出許諾を取る為、輸出用球根の統計に組み込む為と聞いています。)

どうやら 09 年産までは、鱗片養成 (プリペアド・スケール) と 2 年連続鱗片養成栽培 (ネキッド・スケール) が合算表記されており、**(09 まではネキッド・スケール型生産は少なかった。)** 2010/2011 年産の 2 年間のみ、分けた表現となっていた様です。

Plamv 問題を踏まえ、オランダ球根農家ですらネキッド・スケール・ロダクションが、嗜好される傾向が強まってくると聞いています。(一部の OT ではネキッド・スケール・ロダクションでいきなり、14/16~20/UP クラスが収穫されるケースがある。良いのか悪いのか?)

今回、当社独自に作成した表は、11 年産の 2N 養成 (2 年連続栽培養成球=ネキッド・スケール) と 11 年産の開花球面積を合計し、12 年の 2N 養成+開花球 (B. K. D 発表値) の合計面積と比較する形をとりました。

オランダでは、統計を管理していた「P. T」という組織が、各国に向けた球根輸出統計や面積統計を取っていない様です。

昨年までは、系統毎の面積非公開品種の面積の把握は可能でしたが、今回は数週間待たないと数字が出てこないとの事です。

非公開品種は、大きく分けて 2 つのグループがあります。

①生産者が 1 人しかおらず、面積開示義務がない品種。12 年 225. 12ha (開花球+2N 鱗片)

(表記上、others=その他 と分類されている物。)

②主に育種会社が生産している種 (百合の種子) からの生産。ティッシュカルチャー球根の順化栽培 (T1、T2)、現在増殖中の母球生産面積 (S1) など。12 年 204. 59ha (開花球+2N 鱗片)

①は、Z. P 社、D. J 社、V. Z 社、オジナルグループ、バン・テ・マレル社独自品種、ガジノグループ 最新種など、その会社のみしか取り扱いの無い品種などが、①の others=その他、に含まれているケースが多い様です。

②は、Vletter 社、Marklily 社、MAK 社、V. Z 社など、現在増殖過程にある品種などが、Zaailingen+Diversen

に含まれているケースが多い様です。

①の面積は増加しています。

- 1) Plamv 対策が不十分？
- 2) オリジナル（独自）品種の栽培が嗜好されるようになってきている。  
さて、この中に日本向きの品種はどの様になっている？

②の面積は「大幅な」、と言ってよい減少をしています。

- 1) 思い切った Plamv 対策をとった育種会社がいるという事。
- 2) 温室内栽培面積が大幅に増加したことが開花球に分類されていたはずの面積減少に繋がっている。

これも Plamv 対策。80 年代のユリ球根生産原点回帰。良い事だと思います。（こんなに温室があったのか？）

いずれにしても、①②の開花球合計面積（鱗片用母球まで含めて、販売用球根というのです。）に大きな変動が無かった事は注目に値します。（両年とも 400ha 強！）

- 1) ここから、日本向け品種が多く輸出されて来ていたから。
- 2) 13 年以降大幅に減少するであろう品種の替りに、母球供給され 14 年/15 年、将来生産される品種が含まれているからです。

今回の栽培面積表には、系統毎の面積非公開品種の面積推移がどのくらいあるのか不明な為、品目ごとの傾向をつかむことが難しい様です。

加えて速報値中の速報値の為、数字の精度が低い！後にたぶん大丈夫だという意見の方が多い。

近年は栽培面積表発行が、球根市場/相場に与える影響よりも、各国への輸出球数統計・月次推移の影響の方が大きかったように感じています。

残念ながらその統計はもうありません。（将来復活してほしい！）

面積表が市場に与える影響がどの程度のものとなるのかは分かりませんが、簡単に分析した報告を行います。

## 分析の前提

①世界市場は冷え込んでいる。A.H/L.A、O.H/O.T、L.O 全て。（南半球産含む。）

②今回の品種毎の面積推移を見れば、Plamv 対策は全く不十分と言わざるを得ない。数百 ha 規模で Plamv ロットが未だに生産されている。面積減少という対策が取られた品種は、昨年全く売れていなかった品種だけに見える。（オブラカ含む。Plamv というより、売れてなかっただけでしょう。それにしてもオブラカの場合、開花球減少より、養成球の大幅減少が気になるどころです。ついに来てしまったか？）

③全般的には明らかに過剰感が出てくると思います。ただし、全ての面積が良質な球根、または履歴がはっきりしている球根だとしたならばです…。

Plamv の影響はそのバリス問題だけではなく、生産農家、輸出業社植付前の種球処理、増殖方法など様々な場面で影響を与えています。例えばネトダ問題も心配になってきます。掘り取り後の処理の変更は、Plamv 懸念品種の青カビ、鱗片腐敗事故を明らかに増加させています。（品種名は控えます。）

対応・対策が本当に取れている面積/農家の球根とそうでない農家との球根価格差は恐ろしいほど大きなものになると考えています。（他国はその安い球根を買うのかもしれない…。）

④どうやら今のところ、12 年産オブラカ産の作況は、あまりよろしくない様です。肥大の為に重要な 3~5 月の天気が良くなく、力をつける為の 6~8 月のうち、ここまでの 1 ヶ月半は良くない。

これからの 1 ヶ月半についてはまだお伝えできない。10 年産と同じ推移となれば作は悪くなってしまう様です。（10 年は作の悪さに助けられて、球根は不足となった。）

\*いずれにせよ、世界消費が冷え込んでいる事が、市場に与える影響が最も大きいという分析となる様です。

**A.H系** 約4%の減少 △12ha (あくまでも公開品種のみ。)

黄 △9.0 ha 減り方としては足りない。

ピンク △5.0 ha こんな物でしょう…。

白 △4.5 ha 減り方が足りない。

赤 +0.03ha この動きが正しいかどうかわからない。

ルンヅ +7プロット +12.7ha 世界的には、この増加は望まれている様です。既にポトチスが確認されている今年の作ではこれで良いのでは？但し、Plamv が明らかに入っているロットがある品種が増加していることに対して文句を言いたい。

**L.A系** 約3.3%の減少 △30.5ha (あくまでも公開品種のみ。)

黄 △29.6ha 減り方としては足りない。作況の悪さを考えれば良いのかも？

昨年までのデジールは明らかに過剰。悪いロットはまだあるはずだからもっと減らしたほうが良い。セラダの減り方はまだ足りない。もっと減らなければ…。S-ESは維持してほしい。(13年以降…)なんでイローダが増えるんだ？何でシベルが増えるんだ？エデイは冬作は花飛ばないが、葉が長くなる。デジール作型でやってください。

G.エー、ミー、カテシオの面積が載っていない。ちょっと注目しておいて！

ピンク △23.3ha 減り方としては足りない。

カプロットの面積が載っていないが、S-ES圃場は減少。木子球生産は消滅だそうです。

名品種、サムルが無くなる勢い…。プリンティなんて70%くらい減れば良いのに…。サマセットが出てきているのだから…。

白 +3.4ha 増えてしまった。

メシコ市場が支えきれないとは思えない。古い品種はできるだけ手を出さない。

リッチメントとメルザ、初バサントやってみてください。

赤 △2.8ha この動きが正しいかどうかわからない。

日本においてはあまり重要度の高い花色ではないが、有望種(生産性が高く、綺麗な品種)増加中。良い品種でてきています。お問い合わせください。

ルンヅ +21.8ha 今年注目されたバートン。数百球がいきなり190,000球近くに増加した。その面積、載っていません。この花色の面積増加が、国際的に正しいかどうかわかりません。

ただし、**日本向け品種においては、**

①南半球 R.トリニティ増加

②インディアンダイヤモンドのオランダ産減少。加えて良品ロットは昨年の半分くらいまで減少。

③プーマ、オネステイ、ミルカ、サモンクラシック、シルバーンの増加は日本に関係無い。

④ハトパークのネトダ問題。認識している輸出入業者は何軒いるの？

⑤R.トリニティの良質ロットはすでに確保済み。ワールドフラワー社(優秀な球根農家であり育種会社でもある)のケー販売担当から特別リンペン栽培球根として実際に輸付きの良さが確認されているロットをS-ESとして契約・販売しているが、鱗片面積が載っていない。どうなっているの？調査中…。

A.HルンヅのPlamv品種をだれも扱わなければこの動きで良いのだろうが…。分かっている市場は分かっていますし、分かる必要もないのでしょうか…。Plamvだけど、夏場でインディアン並みに優秀な品種が一つ二つ確認されています。

バカラー △0.16ha この動きが正しいかどうかわからない。

\*異種間交配(L.AやO.T)の八重ってまだ出せないのかな～。

(枝替わりはすでにあるけど安定していない…。)

\*八重品種は、交配種だとA.HとO.Hだけです。15～20年後はO.H系は、八重だけになっている？

そうはなってほしくないけど…。

その時のO.TをO.Tと見抜ける人はいない位O.Hみたいに進化してほしいけど…。

V.Z社はO.Tより早いO.H系を開発中みたい。すごいスピードです。

育種会社が途中で息切れ、異種間交配は金がかかり過ぎるみたいだし…。どちらの方向に向かうのか？

ドキドキワクワクはしますけど、ついていくのは大変です。

**0.H系** 5.1%の減少 △76.6ha (あくまでも公開品種のみ。)

\*フランス産の面積が主要品種を中心に大きく減少！と聞いています。将来の隔離検疫免除に向けての品質改善準備に入った！

フランスからオランダに栽培地移動が行われた。

\*それを踏まえても北半球産 0.H 系球根栽培面積は、南半球産のそれと同様、過剰だったと考えています。

公開された 12 年産面積も表面上では十分な減少とは言えません。

\*価格には大きなバラつきが出るはずで。

- 1) 国際消費減少。
- 2) 作況予測弱い。
- 3) 良質ロットの確保の難しさ。
- 4) 取引後半の価格乱高下。

経験のない難しさです。

ピンク △10.3ha この動きが正しいかどうか分からない。

フランスからの生産地移動も考えれば、リボン系は減少となった様子。

これは良かった。Plamv 懸念も高い品種ですし…、赤ピンク系の O.T 増加を考えると国際需要は減るはず。品質懸念ロットは価格下がるでしょうし、そうであるべき。作が悪くなって下がらなかったなんて事になると品質差異の見極めが難しくなるだけ！

芽動きが早い淡ピンクの増加（事故率高い！）困ったものです…。

有望だと思ったラインが減っている。なぜ？売れないサイズがあるからか？

白 △42.4ha この動きが正しいかどうか分からない。

シベリアの増加はフランス産減少を考えれば増加とは言えない。(約 15.0ha くらい移動したとの事。)

白系は Plamv より LMOV+LSV の問題の方が大きい様な気がする。いずれにしてもロット見極めが大切なのだと思います。

減ったのはカブラカ、リアルト、マザーチョイス、カラインテンセン、アルマタ、サンダー。Plamv もさることながら、売れ行きの問題。LOMV 対策をしっかりともらわないと本当に困ります！

赤 △2.4ha この動きが正しいかどうか分からない。

モンテスマとティバーの面積が減らなかった事は…。

白黄・バカテ △21.5ha この動きが正しいかどうか分からない。

大きく減ったのは、シェルブルグ △18.0ha そりゃ減りますはなあ〜。

\*11/12 年産の面積公開品種の中で、面積が減ったのは、売れ行きの悪い品種が中心。開花球+2N 鱗片で Plamv 対策が十分に取れているとはとても言いきれない。

この影響が大きく出るのは、12 年産の作が悪くなくて球根が過剰になった時、初めて血の流れる改革が進むはず。11 年産・12 年産はその過渡期。

11 年産の悪さを大きな教訓として、12 年の仕入は慎重に進めてきたつもりです。(どうやって買ったらいいかわからなくなるほど悩みました…) 完全に逃げ切ることはできなくとも、ちょっとでも良品球根確保を目指して…。

**0.T系** △4.3%減少 14.9ha 減少 (あくまでも公開品種のみ。)

\*あまり分析したくありませんがやります。

黄 △28.2ha この動きが正しいかどうか分からない。

減ったのは、ベラトナとレロウイン。理由が何であろうと、減ったのは昨年売れなかった品種だけ…。他の品種…こんなに増やして…どうするの？Plamv 対策は？発症しないから良いのか？

\*黄色の 0.H 系は強くてよく出来るから新興国を中心に需要が拡大した。白系に良い O.T が出てきたら一気にその役割が減ってしまうという分析が始まった。その分析をしている輸出業社はまだたったの 2 軒。本当??

別に日本にはあまり関係ないから良いが…。(もしそうなら日本に関わる品種で他国での需要の多い品種にも後々影響出てきます！)

赤 +1.7ha この動きが正しいかどうか分からない。

冬作でこの花色から、1 ケースの切花輸送箱に 20 本以上梱包できる品種を探すのは難しい。夏場切前で切ると、リボン系より色薄くなる。こんなに作ってどうするのか？まあ日本はあまり関



係ないからよいけど…。ソボンヌやティバーの売れ行きには影響しますよね～。

その他 +11.67ha 増加。

合計の栽培面積はまだ少ないので、ピンクも白もこの中に入っている。12年産では大半の開花球+2N 鱗片面積はまだまだ母球として流通する様です。13年14年にはテーブルダンス、ザンバジが12年産の価格より大幅に下がって流通するでしょう。今年のうちにご自身で栽培試験しておいてください。

**L.0系** +15.1ha 増加 (あくまでも公開品種のみ。)

この動きはきっと正しいのでしょう。ひたすらおトコトコにつきます。フランスで球根生産した場合、圧倒的に普通の鉄砲百合より安く良い球根が出来るから。今後のLOL、LLO、LOOL、LOOTなど、夢が膨らみます。

**鉄砲百合** +9.5ha 増加 (あくまでも公開品種のみ。)

この動きが正しいかどうかはわからない。開花球面積に対して養成球面積がやたらと大きい。

母球管理、養成球はフランスで…開花球の大半はフランスで…。

ヨーロッパ市場で使われる鉄砲百合球根の大半はフランス産。力があって品質が良いから。さすがMAKの**指導**だけあって、**一般**農家も理屈がわかってますね！(おトコトコの事。日本にはあまり関係ないけど。)

**その他のユリ** △0.67ha 減少

分析できません。大半がドラセラ用と思われる。

## 当社試験栽培について

当社試験栽培には大勢の皆様にお越しいただき、大変ありがとうございました。温室建設等の諸事象により、例年より開花が遅れ、来社頂いた皆様には日程調整の点で、大変ご迷惑をお掛けいたしました。お詫び申し上げます。

今回の試験栽培は、

①A.Hの八重

②L.Aの新品種

③O.Hのコンテ イオン別メット/デメットなど、ビックリするくらい収穫の多い年となりました。

④Longiは実際に栽培される気象条件で開発すべきという事がはっきりした。

⑤ほとんどのお客様がお越しになった後に、(7月13日以降から)「到花日数は長いけど綺麗じゃない」という晩成系の常識を覆す、「到花日数が長くて、花保ち良くて、水上げが良くて、葉焼け、奇形についてはまだ分かりませんが、綺麗な品種」が、ほとんどの育種会社の品種に含まれていた事。これもある意味、衝撃的でした。

こんな事、ここ何年もありませんでした。

フランス、フランスなどで生産されるべき品種

ニュージーランド、オランダなどで生産されるべき品種

ネットスケールプロダクションによって生産されたフランス産の品質の良い養成球が、世界中の球根生産地に分散生産される。(日本も含めましょう！) 各々の球根生産地の気象条件に合わせた品種が栽培されてくる。

そんなことを夢見れるようになってきたなあと思いました。

この試験方法で良かったと思いました。

秋、そして来年以降の試験栽培でも新たな発見・再確認ができると信じています。

今は苦しいですけど、将来の為、

百合切花の価値はそのほかの球根切花とは一線を画していくにせよ、

オーストラリアにも、アルストリアにも負けない、花屋さんが儲かる花材であるための新品種開発・コンテ イオンの有利性の有無の確認を進めていきたいと改めて感じました。

全ての球根類が、営利栽培用に使用されるとき、コンテ イオン別に栽培/販売されていますからね…！

百合も最終的にはそうなるはずです。なにせ土の下で作る農作物ですから！

詳細はお問い合わせください。

森山隆